

桜ライン311

-未来へのまちづくり-

1 社会資本の概要

2011年3月11日に発生した東日本大震災。最大浸水高17.6mの大津波により岩手県陸前高田市は壊滅的な被害を受けました。陸前高田市では、東日本大震災後「海と緑と太陽との共生・海浜新都市」の創造を復興の目指すまちの姿として掲げ、震災復興計画を策定・実施しています。

防潮堤等の海岸保全施設整備はもとより、避難路の整備、コンパクトな市街地の形成、市街地のかさ上げ、避難情報の速達性の確保、防災啓発など、ハード、ソフトの施策を駆使し、子どもたちから高齢者まで、誰もが安全と安心を実感できる多重防災型のまちづくりを基本としています。



高田松原海岸 防潮堤工事



復興工事現場と隣り合わせの桜の植樹場所

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

東日本大震災以降の地質調査により、約1,100年前にも同規模の津波がこの地域を襲っていたことがわかりました。このことが震災以前に住民の中に「生きた知識」として残っていたら、ここまでの人的被害を出さずに済んだかもしれません。陸前高田市では防潮堤等の社会資本整備が進められていますが、その効果を高めるためにソフト対策を適切に組み合わせたまちづくりを展開する必要があります。

桜ライン311では、市内約170kmに渡る津波到達ラインに10mおきに桜を植樹し、ラインに沿った桜並木を作ることで、後世の人々に津波の恐れがあるときはその並木より上に避難するよう伝承していく活動をしています。また、そのほかにも、津波のこわさ、備えの重要性を子孫の世代まで風化させないための普及・啓発事業として全国各地での講演活動を行っています。



参加者による植樹作業



次世代を担う地元小学生との植樹会を実施



岩手県 陸前高田市

認定特定非営利活動法人 桜ライン311／陸前高田市

3 活動の成果や波及効果等

2011年11月6日の第一回植樹会より、陸前高田市内228箇所、1,088本(2016年12月8日時点)の桜の植樹を行ってきました。小さな歩みの中でも継続的に活動を行っており、年々参加者も増加しております。植樹した桜については、全国のボランティア、地元の造園業者等と協力しながら管理を行っています。

美しくも儚い日本人にとって最も愛される樹「桜」が、毎年花を咲かせることで、地域に愛され、より長く震災被害が人々の記憶に、街の記憶に残っていくことを期待しております。



100名を超える植樹会の参加者



最初の植樹地である浄土寺の桜開花状況

喜びの声



受賞者

認定特定非営利活動法人桜ライン311
代表理事 岡本 翔馬

コメント

この度は栄えある「手づくり郷土賞」の受賞に心から感謝申し上げます。
東日本大震災の記憶の伝承を目的に設立した団体の活動が、こうして多くの方に参加し支えていただいていることを何より誇りに思っています。
引き続きしっかりと継続してまいります。

活動内容

桜の植樹活動(年2回春と秋に実施)普及・啓発活動として講演活動など

活動の経緯

平成23年 任意団体として発足
第一回植樹会を実施
平成24年 特定非営利活動法人に認証
平成27年 次世代を担う小学生を対象とした植樹会の開催

手づくり郷土賞について

グランプリ2016

講評

大賞部門

一般部門

資料集

所在地

岩手県陸前高田市

活動主体及び連絡先

認定特定非営利活動法人 桜ライン311 (0192-47-3399 代表理事 岡本 翔馬)

対象となる社会資本

陸前高田市震災復興計画の中で整備を進めている社会資本全般

※管理者: 岩手県陸前高田市

